

東濃農林事務所の普及活動状況

令和8年8月

潜在力をフル活用した生産強化

■水稻・酔むすび 第2回「酔むすび」産地づくり研究会開催

8月27日（木）に、瑞浪市の日吉コミュニティセンター及び瑞浪市の（農）日吉機械化営農組合の現地ほ場で、生産者、酒蔵、関係機関 54 名が集まり、「酔むすび」の産地づくり研究会を開催した。

「酔むすび」は酒米需要の高まりを受け、美濃地方の酒蔵から地元産酒米の生産要望があり、「ひだほまれ」に次ぐ岐阜県で開発された酒造好適米として育成された。令和4年度から現地栽培試験や酒蔵での醸造試験を行い、令和6年度から東濃・恵那管内で栽培が開始された。

研究会では、現地ほ場で農業普及課が「酔むすび」の生産状況を説明するとともに、室内検討では実証ほの生育状況報告を行った。また、生産者、酒蔵、関係機関による意見交換を行い、「酔むすび」に対する思いや要望を共有した。

農業普及課は「酔むすび」の品質向上と安定生産を支援し、東濃管内の新たなブランド及び生産者の経営安定に取り組んでいく。



【ほ場での説明の様子】



【生育状況の報告の様子】

潜在力をフル活用した生産強化

■水稻・有機栽培に関心がある生産者

水稻の有機栽培に係る現地検討会を開催

8月5日、瑞浪市の（農）日吉機械化営農組合で「有機栽培現地検討会」を開催し、有機農業に関心を持つ生産者など 23 名が参加した。

開催に先立ち、（農）大湫機械化営農組合に対し、東濃管内初となる「みどり認定通知書」の交付が行われた。同組合が進める、土づくりを通じた化学肥料削減計画が認められたもので、交付式では、東濃農林事務所長から認定証通知書が手渡された。

現地検討会では、農業普及課が（農）日吉機械化営農組合における水稻の有機栽培について、令和5～6年の実証試験により、施肥・除草体系がほぼ確立されたことを報告し、出席した生産者1名が有機栽培の実践に強い関心を示した。

また、令和8年10月施行の「岐阜みどり農業認定制度」を説明し、ハードルの高い有機栽培へいきなり移行するのではなく、同制度を活用して段階的に化学農薬や化学肥料を減らしていく手法を提案し、新たに取り組む経営体が意欲を示した。農業普及課は、今後も同制度の周知と経営体への支援を続け、環境保全型農業の普及と拡大を目指していく。



【現地検討会の様子】



【みどり認定証通知書の交付】